

## 今日のみことば

### □ 1月29日(日) 使徒言行録 7章

ステパノの敵対者たちは、彼をユダヤ議会に引っ張っていった。ステパノは、ユダヤ議会に対して、イエスを宣べ伝えました。そこにいた者たちは怒って、ステパノを打ち殺した。

### □ 1月30日(月) 使徒言行録 8章

ステパノの死に続く迫害は、初めて教会が外に向かって広がってゆく結果をもたらした。散らされた信徒たちは、どこにおいても福音を宣べ伝えた。

### □ 1月31日(火) 使徒言行録 9章

サウロの回心は、初代教会の転換期となった。彼はダマスコにあるユダヤ人会堂で福音を宣べ伝えた。サウロを殺害しようとする陰謀を知り、信者たちはサウロを籠に入れ逃がした。

### □ 2月1日(水) 使徒言行録 10章

神はペテロに幻を送られ、イエスはユダヤ人と異邦人双方を含む、すべての者のための救う主であると教えられた。ローマ兵士の家でペテロはイエスについて教えた。

### □ 2月2日(木) 使徒言行録 11章

アンテオケで出来た新しい教会に、バルナバが遣わされた。その教会は成長し、ユダヤの貧しいクリスチャンを助けるために、お金を送った。

### □ 2月3日(金) 使徒言行録 12章

ヘロデ王はヤコブを殺し、ペテロを牢に入れた。信者たちはペテロのために祈った。み使いはペテロを牢から解き放ち、ペテロは信者たちの所へ行った。祈りに答えられた神に感謝した

### □ 2月4日(土) 使徒言行録 13章

祈りの最中に聖霊は、アンテオケ教会に特別のメッセージを与えられた。聖霊は他の国々の人々に福音を宣べ伝えるためにパウロとバルナバを遣わすようにと語られた。

---

ろ ぼ No. 1800  
2017年 1月29日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

エペソ6:14

平和の福音を告げる準備を  
履物としなさい。

米国大統領が聖書に手を置いて宣誓する光景を見ながら、人はいかに生きるかを思わせられました。パウロがエペソ教会の人たちに「私たちの戦いは、血肉を相手にするものではなく・・・天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです」と言い、「神の武具を身に着けなさい・・・平和の福音を告げる準備を履物としなさい」と告げる言葉をしっかりと聞かせていただくのでした。

いま私たちは、天にいる悪の諸霊から戦いを挑まれています。どのように私たちはその力に立ち向かうのでしょうか。パウロはエペソの人たちに「平和の福音を告げる準備を」と言いました。私たちは「立てよつわもの／主のみ旗を／高くかざして／いざ戦え／勝ち／十字架の／君にあれば／み旨か

しこみ／勇み進め」(新生讃美歌579)と歌います。作詞家のダフィールドは、不慮の事故で亡くなった親友の大伝道者テイニング牧師の追悼説教で、遺言を引用してこの讃美歌を作詞しました。ダフィールドはその心境を「この歌は発表以来、一語も一行も変えていないし、また「主のつわもの」をそれにかわるものが現れるまで、そのまま続けて歌いたい」と言ったそうです。私はその逸話を聞きながら「立てよいざ立て、主のつわもの」と言う教団讃美歌の歌詞を思い出しました。ところで教団讃美歌21にはこの讃美歌は収録されていません。

パウロは言うのです。私たちの戦いは「悪の諸霊」との戦いであると。そのために「神の武具」を身に着けよと言いますが私には、告げられているそれらは、守りの武具にしか見えません。戦いは先手必勝と言います。パウロはその疑問に「平和の福音を告げる準備を」と言います。私たちにはとっておきのものがあるのです。

戦国の大名にはそれぞれにすてきな旗印がありました。中世の十字軍の旗印は言うまでもなく十字架でした。彼らがどのような思いで「十字の旗」掲げて臨んだかを憶測します。パウロは「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得て」いる（ロマ5:1）と言います。私たちには神との平和があるのです。キリストの兵士は、このキリストとの平和を告げるのが使命です。それをパウロは「福音を告げる履物」と言ったのではないのでしょうか。キリストの十字架の福音の靴をはいて悪の諸霊を蹴散らしている姿を想像します。

パウロは「ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう『良い知らせを伝える者の足は、何と美しいことか』と書いてあるとおりです」（ロマ10:14-15）と言いました。

私はこの現代に生きる中で、この世の諸悪とどのように向きあって生きているのでしょうか。信仰が働いていますか。この新しい年は荒れると言われています。悪の諸霊が暗躍することです、しっかり私たちがキリストの十字架の福音を告げなければ世界は落ちます。「立てよいざ立て、主のつわもの」と鼓舞されているのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コロサイ1:9-14 霊的成長の祈り

パウロは、困難な問題と向きあい苦闘しているコロサイ教会の人たちに、いかにそれらの困難と向きあって勝利を勝ち取ることが出来るかとパウロが祈ってきたことを語ります。

まず「あらゆる知恵と理解によって、神の御心を十分悟る」ことが出来るようにと祈ることでした。そして「主に喜ばれるように主に従って歩み」「よい業うい行って実を結び」「神をますます深く知るように」なり「神の栄光の力によって強められ」と言うことでした。

キリスト者は、神の力によって強くされることによって、彼の信仰を試そうとする、一切の試練や患難に直面しても、「忍耐」することが出来ます。そしてパウロの祈りは「父なる神に喜びをもって感謝が出来ますように」の言葉で結ばれます。

このパウロがコロサイ教会の人たちのために祈る祈りを通して、私たちの祈るべき言葉を教えていただくのです。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

エペソ 6:10-20

信仰の盾